

静岡県立大学に論文を提出して博士学位を授与されたお二人の方々、今日に至るまでのたゆみないご努力に敬意を表すとともに、ここからお祝い申し上げます。ご研究を進めるためにはさまざまな環境を乗り越えることも必要であったことと思います。ご家族や友人、周囲の方々のご支援もあったことでしょう。それらに応えて本日博士学位を得られました。これからさらに研究を続けて行くための免許証を得られたということもできます。

今、世界ではロシアのプーチン大統領の暴走による戦争によって、多くの人々が犠牲となり、難民があふれています。ウクライナへの侵攻、武力による一方的な現状変更を行うとする、受け入れることのできない戦争が行われています。事態を憂慮し、対話による解決を強く望みます。ロシアに留学している学生はかろうじて帰国しました。ウクライナやロシアに関係を持つ教員や学生もおられます。皆さんも、世界の平和のために活動してくださいよう、お願いします。

本日の学位授与に至った論文の審査報告を、私も読ませていただきました。

齋藤啓志（さとし）さんの論文題目は、「低分子骨形成促進薬を指向した新規リエノピリジン誘導体の創薬化学研究」です。主査は眞鍋敬（けい）教授です。高齢化が進んでおり、骨粗鬆症が社会の重要な課題となっています。その治療では現在の第一選択薬となっている骨吸収抑制薬では治療効果が十分ではありません。一方、骨形成促進薬も幾つかの薬剤が臨床で用いられていますが、副作用の懸念などから使用に制限があります。そこで齋藤さんは、世界で初めて、経口投与可能な低分子骨形成促進薬の開発に着手し、その成果を論文にまとめました。本論文は、骨粗鬆症治療薬創製に関して重要な知見を提供するものという評価を得ました。齋藤さんは現在、第一三共株式会社での研究歴17年という研究者です。

萬年遼（りょう）さんの論文題目は、「食材の機能性活用をめざす高フラボノイド食に関する研究」です。主査は市川陽子教授です。代表的なポリフェノールであるフラボノイドは、抗酸化活性などの機能性を有し、習慣的な摂取によって慢性代謝疾患などの発症リスクを軽減するため、その開発が進んでいます。萬年さんの研究は、フラボノイドによる抗炎症作用を継続摂取可能な日常の食事に適用する方法について、科学的に提案することを目的としています。その研究の成果として、フラボノイドの持つ機能性の日常食への適用方法として高フラボノイドの食事設計が有意義であるということが示されました。萬年さんは現在、社会医療法人駿甲会コミュニティーケア吉田で管理栄養士として活躍しておられます。

いずれも社会人としてご活躍のかたわら、研究を進めて論文をまとめたものです。お二人が今後ともお元気で、さらなる研究に従事しながらのご活躍に期待しつつ、本日の博士学位授与にあたっての、私の式辞といたします。

博士学位授与、まことにおめでとうございます。

ありがとうございました。